

## 島根県隠岐の島の「チシマザサ」について

支倉千賀子\*・井上雅仁\*\*・丹後亜興\*\*\*・池田博\*\*\*\*

### *Sasa kurilensis* (Rupr.) Makino & Shibata in Oki Islands, Shimane Prefecture

Chikako Hasekura, Masahito Inoue, Tsuguoki Tango and Hiroshi Ikeda

#### Abstract

*Sasa kurilensis* (Rupr.) Makino & Shibata (Poaceae) is distributed in Sachalin, the Kuriles, Hokkaido, and Honshu. Sugimura (2005) reported *S. kurilensis* from Oki Islands, Shimane Prefecture, the westernmost distribution of the species. We examined Sugimura's collection at the Herbarium of the Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (SNMS), and found that the "*S. kurilensis*" of the Oki Islands was not *S. kurilensis*, but another species of *Sasa*, either *S. miakeana* Sad. Suzuki or *S. ramosissima* Koidz. Therefore, the westernmost distribution of *S. kurilensis* is still Mt. Daisen, Tottori Prefecture, as Suzuki (1996) pointed out.

#### 1. はじめに

チシマザサ *Sasa kurilensis* (Rupr.) Makino & Shibata は、ササ類の中で最も剛壮なもので、稈は高さ3 m, 直径2 cm に達する(鈴木, 1996)。鈴木(1996)は日本産ササ類について分類学的再検討をおこない、チシマザサは樺太、千島、北海道、本州に分布し、分布の西限を鳥取県の大山としている。ところが、枚村(2005)は島根県西ノ島(隠岐群島)にチシマザサが分布していることを報告している。もしそれが本当であれば、チシマザサの分布の西限は隠岐の島ということになる。枚村(喜則)氏の採集した標本は、島根県立三瓶自然館に寄贈され、整理されている(井上ら, 2009; 井上, 2014)ことから、筆者らは隠岐の島産の「チシマザサ」の実体を明らかにするため、2014年10月に三瓶自然館において標本の確認をおこなった。さら

に2015年6月には現地での確認をおこない、良好な状態の標本を得た。ここでは現在までに得られた知見について報告をおこなう。

#### 2. 結 果

三瓶自然館植物標本室(SNMS)で枚村氏が隠岐の島で採集したチシマザサとされる標本(枚村喜則 no. 2038)を3点確認した(SNMS00002927, 00002928, 00002929; Figs. 1-3)。3点とも1983年10月20日に島前の西ノ島にある高崎山で枚村氏本人が採集したものであった。

ササ類を同定する場合、主に稈の分岐・肩毛の有無と質・節の膨出・稈鞘の節間に対する長さの割合、あるいは葉裏・葉鞘・稈鞘の毛の有無と質が重視される(鈴木, 1996)。肩毛や葉裏・葉鞘・稈鞘の毛は、葉が

\* 〒214-0034 神奈川県川崎市多摩区三田 1-15-5-305

Mita 1-15-5-305, Tama-ku, Kawasaki-shi, Kanagawa, 214-0034, Japan

\*\* 島根県立三瓶自然館, 〒694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8

The Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (Sahimel), Tane 1121-8, Sanbe-cho, Ohda-shi, Shimane, 694-0003, Japan

\*\*\* 〒684-0402 島根県隠岐郡海士町豊田 148

Toyoda 148, Ama-cho, Oki-gun, Shimane, 684-0402, Japan

\*\*\*\* 東京大学総合研究博物館, 〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

The University Museum, the University of Tokyo, Hongo 7-3-1, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0033, Japan

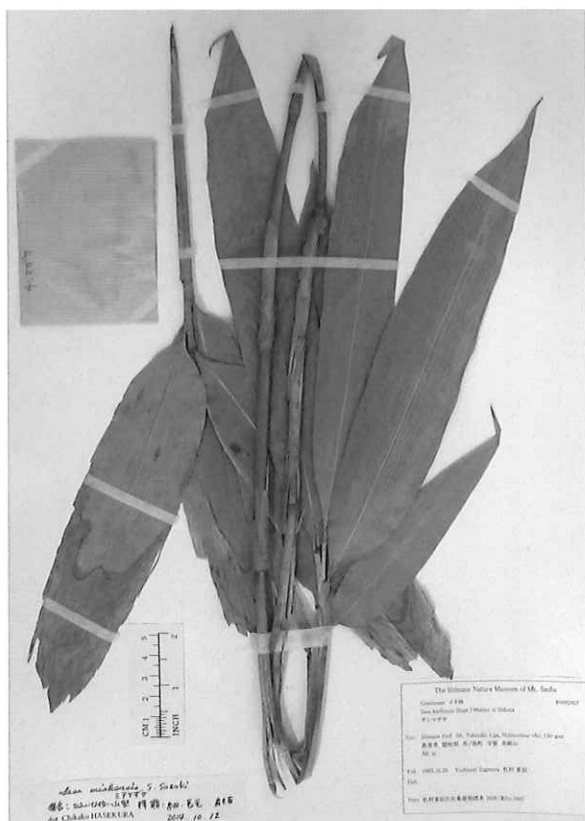


Fig. 1 "*Sasa kurilensis*" in the Herbarium of the Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (1) (Y. Sugimura 2038, SNMS00002927).

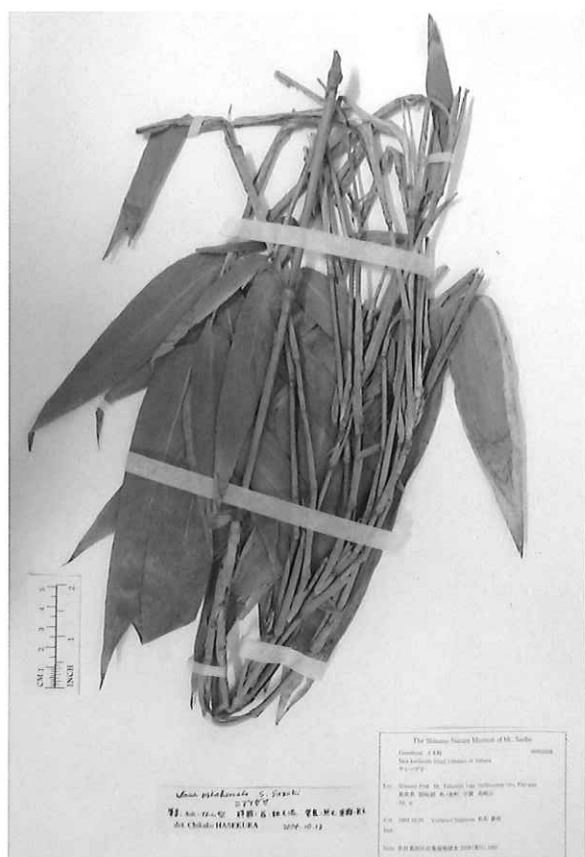


Fig. 2 "*Sasa kurilensis*" in the Herbarium of the Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (2) (Y. Sugimura 2038, SNMS00002928).

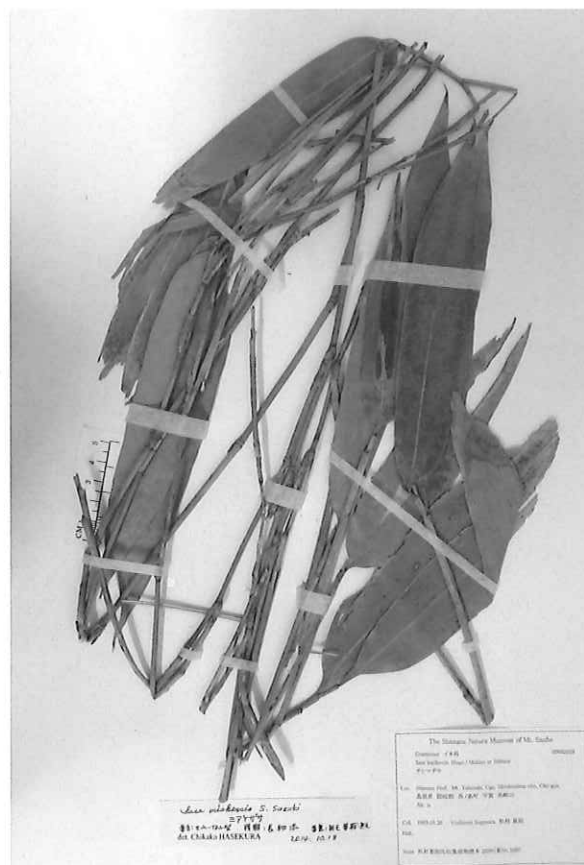


Fig. 3 "*Sasa kurilensis*" in the Herbarium of the Shimane Nature Museum of Mt. Sanbe (3) (Y. Sugimura 2038, SNMS00002929).

展開して時間が経つと脱落することが多いので、同定には展開直後の葉をつけた標本を用いるのがよい。今回の標本は秋に採集されたものであったため、あまり良い状態ではなかったが、観察できる部分を詳細に観察した。

3点のうちSNMS00002927は分岐状態は不明であったが、SNMS00002928と00002929は上部で数多く分岐しているのが観察された。分岐は各節から1本の稈を出していた。3点のうちSNMS00002927にはわずかに肩毛が観察されたがほか2点に肩毛は見当たらず、もともとなかったのか、脱落したのかははっきりしなかった。また、3点とも主稈の節は数珠状に膨出し、主稈の最も長い節間における稈鞘の割合はSNMS00002927では2分の1以下であったものの、SNMS00002928および00002929では稈鞘が破損しており判断できなかった。また、3点ともに葉裏と葉鞘は無毛、稈鞘には開出した長毛と逆向きの短毛が密生していた。

さらに、2015年6月に隠岐の島でおこなわれた植物地理・分類学会の研修会の折に、支倉と丹後により生育地の確認調査をおこなった。当該のササは西ノ島の高崎山山頂南東尾根上に群生していた (Fig. 4)。稈の



Fig. 4 Habitat of "Sasa kurilensis" at Mt. Takasaki, Nishinoshima Island (Oki Islands), Shimane Prefecture.

長さは枝も含め約130 cmで、ちょうど新葉が展開している時期であった。採集した標本を検討した結果、このササは 1) 主稈は上部で頻繁に分岐し、2) 主稈の節は数珠状に膨出し、3) 主稈の最も長い節間における稈鞘の割合は 1/2 以下であり、4) 粗渋な肩毛を持ち、5) 葉裏は無毛、6) 葉鞘には長い毛がまばらに生え、7) 稈鞘には開出する長毛と逆向きの短毛が密生していることが明らかになった。

### 3. 考 察

隠岐の島産の「チシマザサ」は、上記 1) ~ 7) の特徴を持つことが明らかになった。SNMS の標本では明らかではなかったが、現地における観察および良好な状態の標本を用いて明らかになったこととして、全体の高さ、稈鞘の長さの割合、葉鞘の毛および稈鞘の毛の状態がある。全体の高さについては現地観察により確認されたもので、その他の形質については、枚村の標本が秋に採集されたものであったために、重要な形質が脱落・破損したためと考えられる。

標本および現地観察により、隠岐の島の「チシマザサ」は、鈴木 (1996) が認識するチシマザサとは大きく異なることが明らかになった。すなわち、鈴木 (1996) によれば、チシマザサは、1) 主稈は上部で頻繁に分岐し、2) 主稈の節は数珠状に膨出することはなく、3) 主稈の最も長い節間における稈鞘の割合は 1/2 以上であり、4) 肩毛はなく、5) 葉裏は無毛、6) 葉鞘は無毛、7) 稈鞘も無毛、というものである (表 1)。特に肩毛の有無や各部の毛の有無はササ類を分類する際に重要な形質であり、チシマザサについては、肩毛がないことや各部が無毛であることは種を特徴付けるものである。したがって、隠岐の島に生育する「チシマザサ」はチシマザサそのものではないと考える。

鈴木 (1996) に従えば、上記特徴をもったササとして、ミアケザサ *Sasa miakeana* Sad. Suzuki が挙げられる。ミアケザサは Suzuki (1992) によって記載されたササで、本州の山陽地方 (広島県、山口県) と四国 (愛媛県) に分布するとされる。ミアケザサについてはそれ以外の産地の報告はないことから、隠岐の島の「チシマザサ」がミアケザサだとすると、島根県初記録となり、ミアケザサが山陰地方にも分布することとなる。ただし、鈴木 (1996) ではチシマザサのシノニム (同物異名) として、隠岐の島 (島前: 高崎山) から Koidzumi (1938) が記載したコバノネマガリ *Sasa ramosissima* Koidz. を挙げており、今回のササがこのコバノネマガリに当たる可能性もある。ミアケザサとコバノネマガリの異同については、タイプ標本を含めた変異の解析が必要であり、今後検討を進める予定である。いずれにせよ、隠岐の島に生育する「チシマザサ」はチシマザサではないことから、チシマザサの分布西限は、従来通り鳥取県大山と考えられる。

ササ属 *Sasa* Makino & Shibata は、属内の節 (section) の設定、種の区分について異論が多く、今後もタイプ標本の検討や野外集団の形態変異の詳細な検討などが必要であることから、今回は隠岐の島の「チ

表1 Comparison of typical *Sasa kurilensis* and "*S. kurilensis*" in the Oki Islands, Shimane Prefecture.

	チシマザサ	隠岐の島の「チシマザサ」
稈の分岐	上方でよく分岐	上方でよく分岐
高さ	2 - 3 m	1.3 m
節のふくらみ	やや膨らむ	数珠状に膨出する
最も長い節間における稈鞘と節間の長さの割合	1/2 - 3/4	1/2以下
肩毛	なし	あり
葉裏の毛	無毛	無毛
葉鞘の毛	無毛	まばらに長毛
稈鞘の毛	無毛	開出長毛と逆向きの短毛が密生

シマザサ」がチシマザサではないことを報告するにとどめておく。筆者らの予備的な調査では、ミアケザサに類似する形態を持ったササは島根県本土側西部の山地山麓にも点々と生育しており、また兵庫県でも確認している。今後は中国地方全域を精査し、中国地方産ササ類の形態変異と分布を明らかにする必要がある。

### 確認標本

島根県隠岐郡西ノ島町宇賀 高崎山 (杵村喜則 2038 (SNMS00002927, 00002928, 00002929), 20 Oct. 1983, Herb. Shimane Nat. Mus. Mt. Sanbe (SNMS), 3 sheets). 同 高崎山南東尾根上, 350 m (支倉千賀子 & 丹後亜興 20150602001, 2 June 2015, SNMS, TI).

### 謝 辞

本研究を進めるにあたり、ハーバード大学の David E. Boufford 博士には Abstract のチェックをいただきました。深く感謝いたします。

### 引用文献

- 井上雅仁 (編) (2014) 島根県立三瓶自然館収蔵資料目録 第12号 杵村喜則氏収集植物標本目録 (II). 207 pp. 島根県立三瓶自然館・公益財団法人しまね自然と環境財団, 松江.
- 井上雅仁・松村美雪・野上篤孝 (編) (2009) 島根県立三瓶自然館収蔵資料目録 第11号 杵村喜則氏収集植物標本目録 (I). 158 pp. 島根県立三瓶自然館・公益財団法人しまね自然と環境財団, 松江.
- Koidzumi, G. (1938) Contributiones ad Cognitionem Florae Asiae Orientalis. Acta Phytotax. Geobot. 7: 112 - 117.
- 杵村喜則 (2005) 島根県の種子植物相. 島根県立三瓶自然館研究報告 (3): 1 - 49.
- Suzuki, S. (1992) New or noteworthy plants of Japanese Bambusaceae (9). J. Jpn. Bot. 67: 286 - 290.
- 鈴木貞雄 (1996) 「日本タケ科植物総目録」増補改訂版 日本タケ科植物図鑑. 271 pp. 聚海書林, 船橋.